

キンギョソウ



■キンギョソウのプロフィール

学名： *Antirrhinum majus*

科名： オオバコ科

分類： 一年草

原産地： 地中海沿岸

キンギョソウはもともと地中海沿岸原産の多年草ですが、夏の暑さに弱いため日本では半耐寒性の一年草として扱います。草丈は20cm~1m程まで品種によって異なり、花穂に金魚に似た色鮮やかな花を咲かせることから名前がつけました。

キンギョソウは古くからヨーロッパで品種改良が進み、花丈のバリエーションも花色もたいへん豊富です。また、花の色だけでなく、最近ではダークカラーの葉のキンギョソウも出てきて、花が咲くまでは、カラーリーフとして楽しめる品種も登場しています。開花時期は春ですが、品種によっては、長く咲いてくれるものもあります。耐寒性は比較的強く、マイナス5度程度までは耐えてくれますが、強い霜に当たると枯れることもあるので注意します。

■キンギョソウの育て方

●タネまき

キンギョソウはタネまきで育てられます。タネまきの適期は春4月と秋9~10月頃です。

本葉が4~6枚になったらポットに鉢上げします。育苗ポットなどに土を入れてタネをまいたら、発芽に光を必要としますので、土をかぶせずに管理します。キンギョソウのタネはとても細かいので、タネが重ならないように薄くまきます。タネまきの土は、赤玉土小粒とバーミキュライトを同量混ぜたものや、タネまき専用の土を使います。土が乾かないように霧吹きで水やりをし、おおよそ7日くらいで発芽します。本葉が2~3枚になったらポットに鉢上げし、本葉が4~5枚になったらプランターや地面に植え替えます。

●苗からの育て方

年々春の草花苗が早めに出回る傾向があって、秋~冬の時期からキンギョソウの苗が販売されています。花壇など地植えで育てる場合は、霜が降り始める時期より前に植え付けると安心です。植え付け直後に霜が降りると、霜で根がやられてしまう場合があります。

キンギョソウは直根性の性質を持ちますので、植え付ける時は、根を崩さないように注意して植え付けましょう。

●育て方のポイント

キンギョソウは、日当たりを好みます。水やりは過湿を嫌うため、やり過ぎないようにします。地植えで夏越しさせるのは難しいため、一年草として扱われることが多いですが、開花期間が長いので、株が混みあってきたら切り戻しをして苗をリフレッシュさせると枝分かれして花数が多いしっかりとした株になります。切り戻しをしないと、背が高くなって、倒れたり姿が乱れたりしますので、適宜切り戻しをして育てます。

キンギョソウはタネもできやすく、タネのさやの形がかわいい花姿に似合わず「ドクロ」のように見えることも意外な特徴です。ぜひ観察してみてください。

